

— 静かな夜と空を返せ —

発行日：2016年1月22日

発行者：大沢豊／福本道夫

No.22

# 横田・基地被害をなくす会 NEWS

## 原告団 NEWS No.13

# 合同 発行

連絡先：〒196-0001 東京都昭島市美堀町 3-13-1 留守 TEL&FAX：042-542-5625

E-mail：なくす会⇒ yokota\_nakusukai@yahoo.co.jp 原告団⇒ yokota9th@yahoo.co.jp

Web サイト [http://www.geocities.jp/yokota\\_nakusukai/](http://www.geocities.jp/yokota_nakusukai/)

発行：横田・基地被害をなくす会，第9次横田基地公害訴訟原告団

※NEWSは「横田・基地被害をなくす会」と「第9次横田基地公害訴訟原告団」の合同発行です。

### NEWS内容 (CONTENTS)

|                            |   |                            |   |
|----------------------------|---|----------------------------|---|
| 2月4日第14回弁論参加要請……………        | 1 | 深夜～早朝に大騒音……………             | 4 |
| 謹賀新年(横田・基地被害をなくす会：代表)…………… | 2 | 経過報告と今後の予定……………            | 5 |
| 今年こそよい年に(ご原告団・団長)……………     | 2 | 2月12日オスプレイ横田配備反対の要請書は…………… | 5 |
| MV22 オスプレイの事故率大幅増加……………    | 3 | オスプレイ反対署名へに引き続きご協力を……………   | 6 |
|                            |   | 天 欄……………                   | 6 |

# 2月4日 第14回弁論に参加を 10時15分高松駅西側公園に集合

## 立川地裁4階405法廷で午前11時開始

来る2月4日(木)の法廷では、弁護団が国の主張する「昼間騒音控除論」について反論する予定です。

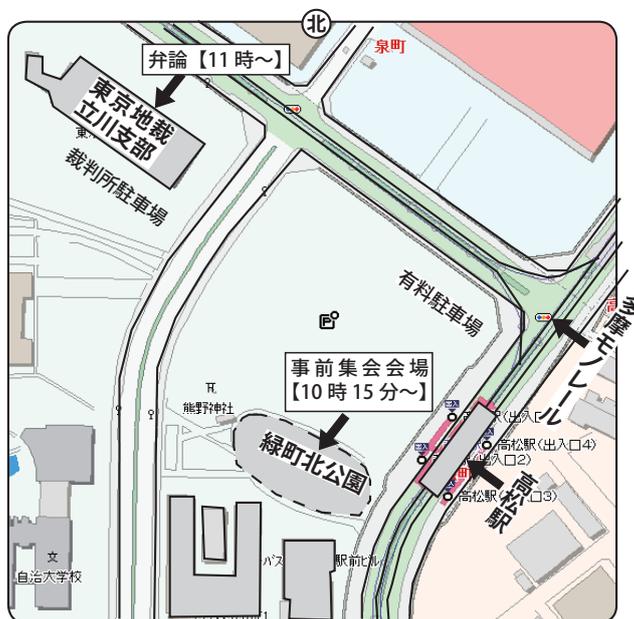
弁護団を応援する意味でも、被告国に横暴な主張をさせない意味でも、傍聴にご協力ください。

裁判所に行くのが身体的にきつい方は、車での送迎も検討しますので、下記電話にお申し出ください。

事前集会は10時15分～緑町北公園です。

◇連絡先電話：090-4951-0800(福本携帯)

裁判当日は、いつも裁判開始前に緑町北公園で簡単な集会を行っています。集会では、弁護団の先生や原告団、横田・基地被害をなくす会の役員が、当日の裁判内容や基地の状況などを説明し、隊列を組んで裁判所に向かいます。また、当日の裁判内容(主に原告側が裁判所で主張する内容)をニュースにしてお渡しします。ぜひご参加ください。



# 謹賀新年

横田・基地被害をなくす会  
代表 大沢 豊



1月15日から17日まで沖縄に行ってきました。昨年11月に行われた「砂川闘争60周年のつどい」で集まったカンパを沖縄辺野古で闘っている方々に届けて交流をするということで派遣されました。立川市からは実行委の元高校教師の星野直行さんと大沢の二人、また砂川判決再審請求人の土屋源太郎さんとも羽田で合流して3人が向かいました。

15日に名護市役所での広報渉外課長さんから米軍基地のキャンプシュワブで起きている廃弾処理による騒音被害の話や山火事の話、辺野古基地建設に反対する市の方針等をお聞きしました。夕方には宜野湾市長選のシムラ候補の総決起集会に参加しました。16日には辺野古のゲート前座り込みに参加しました。さらに海岸へ行き、浜で座り込みを続けている安次富（あしとみ）浩さんに60周年集会で集まったカンパを手渡しました。

17日には宜野湾市長選が始まり、その志村候補の選挙事務所へ。支援のためにカンパを手渡しました。また「普天間爆音訴訟団」の事務所へ行き、赤嶺和伸さんから普天間基地の現状を聞きました。こちらも横田基地の現状を伝える交流をしました。

普天間基地の「移転」という表現がされていますが、辺野古では2本の滑走路を造るだけでなく、新たに強襲揚陸艦が接岸できる港湾施設（軍港）が計画されているのを見る限り、「移転」ではなく老朽化した普天間基地を廃棄しての基地の新設強化ではないと説明をされていました。

横田基地でも同様のことが進んでいます。オスプレイCV-22の「配備」というように伝えられていますが、特殊作戦飛行隊430名がやってきてCV-22が10機配備されるというのです。2010年度には航空自衛隊航空総隊司令部が横田飛行場に移転してきましたが、そのための工事が終了する暇もなく、現在横田基地では様々な施設整備工事が進んでいます。今後はCV-22の離発着に向けて高熱に耐えるスペースが増設され、格納庫や弾薬保管のための施設の工事等が進むこととなります。

1月20日には米軍の最新鋭ステルス戦闘機F-22、F-16が着陸してきました。何の目的でやって来るのか地元自治体にも説明のないまま既成事実化だけが進んでいきます。私たちにとっては緊張の年の幕開けとなりました。

# 今年こそ よい年に



第9次横田基地公害訴訟原告団：団長 福本 道夫

本年もよろしくお願ひいたします。

さて、全国で同様な裁判を行っている各原告団からの情報によれば、新しい動きが出てきています。

昨年は、7月に厚木の高裁判決が出て、10月に岩国の地裁判決が出ました。そして、今年、3月に普天間の地裁結審があり、また嘉手納の地裁結審も近いとの話です。沖縄の2つの訴訟は年内に判決が出ることもあるかもしれません。さらに、第2次新横田基地公害訴訟も2017年の初めには結審になる方向という情報も入ってきました。

私たち第9次横田基地公害訴訟は、もう少し時間がかかります。まだ、具体的な立証がこれからで、結審の日程までは見えてきません。

ところで、横田基地の運用に変化が見られます。

まずは、何と言ってもCV-22オスプレイの横田配備の話抜きにはできません。2017年後半に3機、そして2021年までに7機（計10機）が配備されるというものです。そして、同型機MV-22オスプレイの横田飛来の常態化です。2014年から始まった横田基地への飛来ですが、2015年も当たり前のように飛来しました。

パラシュート降下訓練場としての使用も続いています。また、深夜の離発着が日米合意を無視して行われています。1月20日・21日に、F-22やF-16戦闘機が26機飛来という情報も。

これらは、安保法制改悪と一緒に流れだと感じています。オスプレイの横田配備や飛来があたかも沖縄の負担軽減であるかのような現政権の錯覚手法に騙されている方も、世間一般には多いようです。さらに、尖閣列島問題に関連して、「中国の領土拡大主義に対抗するためにオスプレイが役立つ」という錯覚も植え付けようとしています。

私たちは、今こそこの本質を見極め、判断し、行動する習慣を身につけねばなりません。日本を戦争に巻き込ませてはいけません。基地を優先し人権を無視することを許してはいけません。人権に貴賤上下や国別の差別があってははいけません。

「今年こそ」と毎年思うのですが…、皆様にとってよい年にしたいものです。

# MV22 オスプレイの 事故率大幅増加

第9次横田基地公害  
訴訟原告団・事務局

—なぜか、大新聞は取り扱わないが…—

今年、2016年1月6日、12日の琉球新報によれば、MV22 オスプレイ（普天間基地に配備。米海兵隊所属）の事故率が大幅に増加していることが明らかになっている。

◇1月6日の記事では…

**12年 1.93 → 15年 3.69**

**「重大」各地で続発**

**海兵隊 MV-22 政府説明と矛盾**

米海兵隊が2012年10月に普天間飛行場に配備した垂直離着陸輸送機 MV22 オスプレイについて、10万飛行時間当たりの重大事故の発生率が、配備された時点の1.93件から15年12月時点で3.69件と約2倍に増加していることが分かった。琉球新報の取材に米海兵隊が明らかにした。日本政府などは事故率について「一般に飛行時間の増加に伴い低減する」などと説明してきたが、実際は普天間への配備後3年が過ぎた段階でも上昇傾向となっている。（以下略）

**MV22 オスプレイのクラス A 事故率**  
1.28 (11年8月) → 1.93 (12年5月)  
→ 2.12 (14年9月) → 3.25 (15年10月)  
→ 3.69 (15年12月)

**オスプレイ事故率悪化  
防衛省、公表及び腰  
最新値は14年秋止まり**

米軍普天間飛行場や名護市辺野古に建設が予定される新基地への配備をめぐる、日本政府による「配備計画隠し」などの問題が表面化し、開発段階での事故が相次いだことも含め、安全性への強い懸念が指摘されてきた米海兵隊の垂直離着陸輸送機 MV22 オスプレイ。10万飛行時間当たりの重大（クラス A）事故発生率などの数値は、実際の運用の安全性を検証するために基地周辺の自治体や住民にとって重要な情報だが、日米両政府はこの数値を積極的に発表してきたとは言えない。（以下略）

◇1月12日の記事では…

**オスプレイ事故率 40 倍**

**アフガン配備機 90 時間に 1 件発生**

米海兵隊がアフガニスタンに配備している垂直離着陸輸送機 MV22 オスプレイの2010～12年会計年度までのクラス A～D の事故が90.4時間に1件発生していることが分かった。同国に配備された海兵隊の全航空機による事故の発生は3746.8時間に1件の割合にとどまっておらず、オスプレイの事故割合は約40倍と突出している。（以下略）

**「想像を超える件数」**

**元分析官 利用の低さも指摘**

米国防研究所（IDA）でオスプレイの主任分析官を務めたレックス・リボロ氏は10日、米海軍安全センターがまとめたアフガニスタンでの海兵隊航空機に関する事故報告書について、…見解を述べた。

リボロ氏は、報告書がオスプレイの10万飛行時間当たりの事故の発生率を1105.56件/10万飛行時間としていることについて「戦闘下での事故率は歴史的にも平時よりも高い。ベトナム戦争時のヘリの事故率は10万飛行時間当たり100件ぐらいにとどまっていた。1992～2006年までの作戦下でのオスプレイの試験飛行ではベトナム戦争より高い事故率を示していたが、1105件という天文学的な事故率は想像すらできなかった」と述べた。

リボロ氏はオスプレイの飛行時間が723時間で、他の航空機より少ないことについて「この報告書が顕著に示しているのは、オスプレイの事故率だけではなく、ばかばかしいほど低い利用率だ。米海兵隊はこの輸送機を使っていない」と指摘した。（以下略）

さて、横田基地に一昨年よりたびたび飛来するようになった MV22 オスプレイより危険な作戦に運用することが目的の CV22 オスプレイが、どのような訓練を横田基地周辺で行うのか、まだ分からない。

# 深夜～早朝に大騒音 (11月1日～7日)

11月1日～7日 韓国で米韓合同演習が行われ、横田基地では深夜～早朝の離着陸があった。昭島市、立川市、瑞穂町の騒音測定地点のデータと、離着陸機のデータを照合すると、1日21時44分から2日6時47分までで、以下の通りとなった。(yokotajohoのブログより、形を変えて転載しました。)

深夜から早朝にかけての大騒音で、飛び起きた方も多いのではないだろうか。

1993年に結ばれた日米合同委員会の合意事項において、「22時から6時までの間の飛行は、緊急の場合に限る」とされているが、米韓合同演習は事前に分かっている訓練であり、住宅地のど真ん中にある飛行場を使用しての深夜の飛行など、基地周辺に住む住民の生活を全く無視している姿勢の現れに外ならない。

※数値はピークの騒音レベル dB (A)

| 月日                | 時刻    | 離着陸の方向 | 機種           | 昭島市<br>拜島第2小 | 立川市<br>中里 | 瑞穂町箱根ヶ<br>崎駅<br>西側民家 |
|-------------------|-------|--------|--------------|--------------|-----------|----------------------|
| 11<br>月<br>1<br>日 | 21:44 | 南から着陸  | C-130H(輸送機)  | 92.0         | 89.1      |                      |
|                   | 21:47 | 南から着陸  | F-16CM(戦闘機)  | 89.1         | 85.9      |                      |
|                   | 21:48 | 南から着陸  | F-16CM(戦闘機)  | 94.3         | 89.8      |                      |
|                   | 22:24 | 南から着陸  | C-130H(輸送機)  | 91.9         | 90.1      |                      |
|                   | 23:33 | 北へ離陸   | F-16CM(戦闘機)  | 77.8         | 93.0      | 97.8                 |
|                   | 23:34 | 北へ離陸   | F-16CM(戦闘機)  | 79.3         | 89.6      | 104.9                |
| 11<br>月<br>2<br>日 | 02:00 | 北へ離陸   | C-130H(輸送機)  |              |           | 88.9                 |
|                   | 02:32 | 北へ離陸   | C-130H(輸送機)  |              |           | 87.3                 |
|                   | 03:57 | 北へ離陸   | C-130H(輸送機)  |              |           | 88.1                 |
|                   | 05:47 | 北へ離陸   | C-12J(小型連絡機) |              |           | 74.1                 |
|                   | 06:05 | 北へ離陸   | C-130H(輸送機)  |              |           | 87.8                 |
|                   | 06:13 | 北へ離陸   | C-130H(輸送機)  |              |           | 88.4                 |
|                   | 06:47 | 北へ離陸   | C-130H(輸送機)  |              |           | 90.2                 |

F-16 戦闘機は離陸時、アフターバーナーを使用し、音が大きく 北に飛び立っても、南側まで爆音が響いています。着陸時はC-130輸送機と同じくらいのレベルとなっています。



← F16 と  
C130 →



**住所変更の場合は、  
必ずご連絡ください**

なくす会会員と原告団の皆様へ…住所変更がある場合は、必ずお知らせください。特に、原告の方で家族に移動がある場合は、今後の立証に重大な影響がありますのでご注意ください。なお、連絡は、事務所 FAX、事務所留守電、事務局電話 (090-4951-0800 福本携帯) をお願いします。

# 経過報告と今後の予定 (2015年11月16日～)

- \* 11/16 オスプレイ横田配備反対連絡会
- \* 11/18 横田基地案内 (調布市西部公民館成人学級)
- \* 11/26 第13回弁論と進行協議
- \* 12/3 なくす会+原告団合同役員会議
- \* 12/5 米軍機の飛行差し止めを！オスプレイは米国に撤退しろ！12.5 神奈川集会
- \* 12/16 CV22 オスプレイの横田基地への配備撤回を求める意見書提出に関する陳情 (都議会) →不採択
- \* 12/21 オスプレイと飛行訓練に反対する東日本連絡会
- \* 12/24 オスプレイ横田配備反対連絡会
- \* 12/25 オスプレイ署名まとめ作業
- \* 12/28 原告団Webサイト更新
- \* 1/13 オスプレイ横田配備反対連絡会
- \* 1/20～22 ステルス戦闘機 F22 が 8 機飛来 (1/20)～

- 3日間でF16を含めて26機が飛来する
- \* 1/21 弁護士+原告団会議
- 【今後の予定】
- \* 1/22 NEWS 発送作業
- \* 1/27 東日本連絡会政府交渉
- \* 1/29 新横田・現場検証
- \* 1/31 オスプレイ反対署名 in 昭島駅北口
- \* 2/1 生活者ネット・都政フォーラムにて横田基地の情勢報告
- \* 2/1 オスプレイ横田配備反対連絡会
- \* 2/4 第14回弁論と進行協議
- \* 2/12 午前中 オスプレイ政府要請 (横田6団体)
- \* 2/12 午後2時～ 全国基地連政府要請
- \* 4/28 第15回弁論と進行協議

## 2月12日オスプレイ横田配備 反対連絡会提出の要請書は…

CV-22の横田基地配備とMV-22の横田基地飛来等に関する要請事項(骨子)は、以下の通りですが、検討を進めているところです。

1. 米空軍CV-22オスプレイの横田基地配備計画を撤回するよう、米国政府に要求すること。
2. 米海兵隊MV-22オスプレイの日本への配備を中止し、日本国土での飛行も禁止するよう、米国政府に要求すること。
3. CV-22の横田基地配備決定の経過を明らかにすること。
4. 米空軍特殊作戦コマンドが作成した「CV-22(オスプレイ)の横田飛行場基地配備に関する環境レビュー」に関して、以下の疑問に答えること。
  - ①環境レビュー作成の目的や意義は何か。
  - ②環境レビュー作成にあたって、日本国政府はどの程度関与したのか。
  - ③環境レビュー作成にあたって、日本国の法令や環境管理基準や日米合同委員会合意事項、基地周辺住民への配慮がどれだけなされたのか。
  - ④環境レビュー発行日と発表日に、約8か月のずれが生じているのはなぜか。
  - ⑤日本政府は、環境レビューをいつ入手したのか。また、

その際に環境レビューの内容についての説明を十分に受けたのか。

- ⑥環境レビューについて、関係自治体に十分な説明をしたのか。
- ⑦環境レビュー作成にあたって、基地周辺・訓練空域下に位置する自治体や住民の安全について十分な配慮がなされたのか。また、クリアーゾーンの考え方を採用しないのはなぜか。
- ⑧CV-22は基地周辺や訓練空域で、どのような訓練を、地形を含めたどの地域で、どの高度(地上からの)で行うのか。
- ⑨横田基地周辺の学校施設や老人施設、病院がどこにどれだけあるのかについて調査を行ったのか。行っていないければ、日本政府がその調査を求めたのか。
- ⑩CV-22の事故の危険性、飛行回数、夜間飛行の頻度、低空飛行の頻度と高度、うるささ指数に与える影響について詳細に示されていないのはなぜか。
- ⑪CV-22関連施設の位置が、周辺住民に安全を担保できる場所であるという認識を持っているか。
- ⑫CV-22配備に関連して工事が進められる予定になっているが、日本政府は、その費用を負担するのか。……(以下略)

# オスプレイ反対署名に引き続きご協力をお願いします

オスプレイの横田基地への飛来 (MV-22)・配備 (CV-22) に反対する署名にご協力いただきありがとうございます。昨年未現在で、横田・基地被害をなくす会と第9次横田基地公害訴訟原告団宛に届いた署名数は約 6,200 筆超、他団体と合わせると、約 16,000 筆を超える署名数です。これらの署名は、本年 2 月 12 日の政府への要請行動に併せて提出します。

要請事項は、CV22 オスプレイの配備撤回、MV22 オスプレイの飛来と日本での配備の撤回、CV22 の横田配備に関する環境レビューに関する様々な疑問に答えることなどです (本 NEWS P.

5 参照)。

訓練空域を含めた横田基地周辺で、「これ以上の危険や被害が増加することに反対だ」との声を更に広げてほしいと思います。

なお、2 月 12 日は、午前中にオスプレイの署名提出と要請、午後全国基地爆音訴訟原告団連絡会議の要請を行います。参加希望者は、事務局まで (事前登録の都合がありますのでお早めにご連絡を。

なお、1 月 31 日 (日) 午後 2 時～3 時に、JR 昭島駅北口にて、オスプレイ配備・飛来反対の署名行動を行います。多くの方の参加を呼びかけます。

▶暮れに長野の反戦グループに招かれた。新幹線が通り、大宮から長野はわずか 1 時間半だが、奮発して別所温泉に泊まり、「無言館」を見学した。▶無言館は窪島誠一郎という個人が作った美術館で、戦没画学生の遺作が展示されている。いつか東京駅での「無言館展示」をみたとき、若い画家たちの無念を思う一方で、「日本軍に攻め入られた中国や東南アジアにも多くの画学生がいたにちがいない、彼らの絵はどうなったのか？これだけでは片手おちではないか？」と感じた。現地でもみるべきである。▶上田から支線、タクシーと乗り継いで行った。冬の陽が温かく射し、葉が落ちて疎らになった小高い山の頂上に、コンクリート打ちはなし、見方によっては石棺にも思える建物が建っていた。1997 年創設、数年前には隣に第二無言館が建った。専従職員がそれぞれに居て、すぐ経営と財政に思いがいく私の想像を越えていた。すごい！油絵が多く、日本画もある。デッサンも彫金も、像もある。陳列棚には、画学生が生前使っていたパレットや絵筆・絵の具などの遺品、戦地からの手紙や召集礼状、戦死公報などが並んでいる。戦地を生き残った画家・野見山氏と、その思いを受け継いだ窪島氏が何年かがかりで遺族を尋ねる旅をした成果である。コーヒー、絵はがき、関連する本のコーナーがあり、来館者が感想を書くノートもあった。ノートをめくると、全国から、そして何度も訪れる人があること、高齢の人、父母のお供をしてやってきた人がいる。「絵を描こうと思いました」とひとこと書きつけた若者もいた。

## 天欄

▶窪島誠一郎著『「無言館」ものがたり』を買って帰った。▶窪島さんは 1941 年東京生まれ。

東京大空襲で家を焼かれ、両親は靴磨きをして靴屋の再興を図ったが果たせなかった。反戦派というより無頼派で、経営の才を生かして飲み屋をやりながら好きなデッサンを集めた。79 年に信州上田に「信濃デッサン館」を開設した。無言館にはその実績が生きている。上田市が無償に近い値で土地を提供し、地元の銀行が建設資金を応援し、全国から支援カンパが寄せられた。作品を大事に守ってきた遺族たちもさまざまで、代替わりの時期を向かえていた。戦没画学生慰霊の無言館建設は「間に合った希有の例」だったのである。▶私は日中戦争の兵士だった父が亡くなってから、彼の戦跡を尋ねる旅をしてきた。旅で知り合った中国人の友人が多く、義きょうだいの約束を交わした姉さえいる。そんな私も、中国に無言館が欲しくなった。だが「それは難しい」とも思う。中国では、戦勝国の論理が圧倒的に幅をきかせている。若者たちは、「祖国の勝利のために戦い自らの血をささげた勇士たち」なのである。戦勝国には「靖国」の論理が厳然と生きているのである。▶対テロ戦争が激しさを増し、難民船の沈没と子どもを含めた人々の死が毎日のように報じられる冬である。こんな状態を終わりにするのは、アメリカや中国、戦勝国の論理ではない。ドイツや日本がきちんと敗戦国の哲学を紡ぎ、世界に問う時代がきているのではないか？ (K) ▶1/20～22 にかけて F22 や F16 戦闘機 26 機が横田に集結。理由は不明。(F)